

手術説明書

1. 病名 舌小帯強直症 上唇小帯強直症 頬小帯強直症

2. 手術名 小帯形成術

3. 必要性について

- 正中離開を生じる可能性があるため
- 発音障害が生じているため
- 歯周炎の悪化を助長する可能性があるため
- 小帯があると補綴処置ができないため

4. 方法

- 局所麻酔下に行います。
- 強直している小帯を切除します。
- 切除した創部を縫合します。

5. 合併症と術後の障害

- 痛み:術後2～5日出現するため、消炎鎮痛剤を投与しコントロールします。
- 腫れ:術後2日目にピークを迎え、約5～7日程度で消退します。また、腫れに伴い口が開きにくくなることがあります。
- 出血:術後約1週間は唾液に血が混じります。特に抗凝固剤や抗血小板薬を服用されている方は出血が多いことがありますが、自己判断で服用を中止しないでください。うがいをし過ぎる出血が助長されることがあります。
- 内出血:頬や顎下に内出血が出現することがあります。紫色から黄色に変化して約2週間で消退します。
- 感染:細菌感染により痛みや腫れが増強することがあります。その際は抗菌薬の投与や追加処置が必要となります。
- 発熱:まれに発熱することがあります。消炎鎮痛剤の服用で解熱しますが、なるべく安静を保ってください。
- 数年後に再発する可能性があります。
- 人工真皮や抗菌薬軟膏含有ガーゼを創部に縫いつけた際には、約1～2週間で除去します。
- 末梢神経障害:切除した創部の知覚異常(しびれやひきつれ感)が出現することがあります。ビタミンB12製剤の内服によりほとんどの場合回復しますが、極まれに後遺することがあります。

後藤歯科医院 院長殿

上記の説明を受け、その内容を理解したうえで手術を受けることに同意します。

平成 年 月 日

患者署名

代理人署名

(続柄

)